

NEWS

2007.9~2008.2

東京藝術大学出版会の設置と出版活動開始

東京藝術大学は、藝大関係者のさまざまな教育研究成果を社会に発信するための出版補助活動を行うため、平成十九年八月一日、学内に東京藝術大学出版会を設置した。

〔意義〕

本書の教育・研究成果を社会に発信するとともに、多くの市民が文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができる環境の整備に努めるため、東京藝術大学出版会は、芸

術・学術関連図書等、教科書及び啓蒙書の刊行・頒布を主たる事業として行い、本書の研究とその成果の発表を助成するとともに、芸術・学術・教育・文化の振興・発展に寄与することを目的とします。

〔出版方針〕

- ・教育研究成果である芸術・学術関連図書等の刊行・頒布
- ・教科書の刊行・頒布
- ・一般読者への啓蒙書の刊行・頒布

◆『日本絵画の謎を解く—東京藝術大学文化財保存学日本画博士の研究』を十月十日より出版

本書は、平成十一年度から平成十八年度までの博士論文を、豊富にカラー図版を用いて一般の読者にもわかりやすく編集したダイジエスタ版であり、日本絵画の保存修復研究について紹介したものとなっている。



交流

◆「国立五芸術大学連携協定書」の締結

十二月十二日、東京藝術大学は、金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、沖縄県立芸術大学とともに、日本の芸術文化の発展と心豊かな未来社会の醸成のため、芸術の果たす役割を広く社会に伝え、芸術教育研究環境の向上などにおいて協力関係を一層強化していくことをうたった「国立五芸術大学連携協定書」を締結した。



この協定に基づいて、五芸術大学は今後、学生・教員の相互交流の可能性を探り、また作品制作や演奏などの活動を活性化させるため、論文だけでなく実技を重視する学会「芸術表現学会（仮）」の設立を目指す。

◆大学間国際交流協定締結

八月三日、韓国映画アカデミー（韓国）と本学大学院映像研究科は、映像に関する交流及び教育研究協力を行うことに合意した。
八月三十一日、ブロッツワフ美術大学（ポーランド）と本学は、芸術に関する交流及び教育研究協力を行うことに合意した。
九月十日、フォーラム・ド・イマー

ジュ（フランス）と本学大学院映像研究科は、芸術的探究心、映像教育及び新たなテクノロジーの分野での交流及び協力を行うことに合意した。
九月二十八日、ラサール・シア美術大学（シンガポール）と本学は、芸術に関する交流及び教育研究協力を行うことに合意した。

九月二十八日、グリフィス大学（オーストラリア）と本学は、芸術に関する交流及び教育研究協力を行うことに合意した。

これら五大学との芸術国際交流協定締結により、本学における交流協定締結校は十五カ国（地域）、三十八大学等となった。

受章・受賞

◆林武史准教授が第二十二回現代日本彫刻展二〇〇七で毎日新聞社賞を受賞

九月二十八日、美術学部林武史准教授が「第二十二回現代日本彫刻展二〇〇七」に出品した作品『立つ人—宇部』で毎日新聞社賞を受賞した。

◆北川原温教授が

山梨県建築文化賞を受賞

十一月、美術学部北川原温教授が設計した「Nakanura Keith Haring Collection」（中村キース・ヘリング美術館）が、山梨県建築文化賞を受賞した。

◆薩摩雅登教授が第二回

西洋美術振興財団賞を受賞

十一月二十一日、大学美術館薩摩雅登教授が『ドイツ表現主義の彫刻家—エルンスト・バルラハ』展の企画により、第二回「西洋美術振興財団賞」を受賞した。

◆古田亮准教授が第十九回 倫雅美術奨励賞を受賞

十二月十日、大学美術館古田亮准教授が『揺らぐ近代日本画と洋画のはざまに』展の企画及びカタログ中の論文により第十九回「倫雅美術奨励賞」を受賞した。

◆佐藤雅彦教授が

文化庁メディア芸術祭 アート部門「優秀賞」受賞

大学院映像研究科佐藤雅彦教授が二〇〇七年文化庁メディア芸術祭に出版した作品『SSEY MIYAKE A-POC INSIDE』でアート部門「優秀賞」を受賞した。

運営

◆TASKプロジェクト

十月二十三日、本学教職員や学生らと東京都台東区（T）、荒川（A）、墨田（S）、葛飾（K）四区の中企業経営者・技術者との交流会が、本学構内で開かれた。これは、皮革、金属、繊維、ゴムなどの製造業が集積している四区が、地域産業の活性化を目指して共同で進めているTASKプロジェクトの一環で、本学の企画力と感性を活用した新商品の開発など、産学官連携による「ものづくり」の可能性が探られている。

◆大学院映像研究科に

アニメーション専攻を開設

十二月四日、本学は、大学院映像研究科に平成二十年四月、アニメーション専攻（修士課程、入学定員十六名）を開設すると発表した。国立大学の大学院にアニメーション専攻が設置されるのは初めて。実践的な制作中心のカリキュラムでアニメ界をけん引する人材の育成を目指す。

※詳細は、次号（第十七号）で紹介予定。

今号では美術学部長、音楽学部長、映像研究科長にお集まりいただき、地域連携について、それぞれのお立場で語っていただいた。大学もそうだが行政側の予算の締め付けは相当だ。先日、私がかかわっている地域連携のプロジェクトでも行政側の担当者から「出張旅費が削られまして、打ち合わせにも行けません」と嘆かれたことがあった。たかだか1時間の普通電車の出張である。

われわれも労を要するが、それ以上に行政側の市民の目を気にしながら貴重な税金を芸術に費やすことは苦勞が多く、藝大サイドもそのことは忘れてはならない。「美しい日本」に向け、街づくり、地域循環に芸術の果たす役割は大切だが、今日の行政の立場に立ったバランスのよい企画を捻出しなければ、成果を上げることが難しい時でもある。

藝大通信編集長
長濱雅彦

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式Webサイト (<http://www.geidai.ac.jp>) をご覧ください。

展覧会についてのお問い合わせ
東京藝術大学大学美術館 Tel. 050-5525-2200
NTTハローダイヤル Tel. 050-5777-8600

演奏会についてのお問い合わせ
東京藝術大学大学音楽学部演奏企画室
Tel. 050-5525-2300

演奏会チケットの取り扱い
藝大アートプラザ Tel. 050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel. 03-5355-1280
チケットぴあ Tel. 0570-02-0990
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5815-5452

藝大アートプラザのご案内
(株)藝大BiOn (ビオン)
Tel. 050-5525-2102
Fax 050-5525-2486

◆DVD『東京藝術大学大学院映像研究科第一期生修了制作作品集2007』を十月十八日より発売

収録されているのは、監督領域所属の六名を中心に、各領域の学生たちが協働し、二年間の研鑽の成果を十分に發揮して完成させた全六作品。第十二回釜山国際映画祭のコンペティション部門に出品を果たした『A Bao A Un』(加藤直輝監督)や、横浜市長賞受賞作品『兎のダンス』(池田千尋監督)をはじめ、世界へと新たな一歩を踏み出した記念すべき作品群である。



東京藝術大学出版会の出版物等は、本学藝大アートプラザおよびアマゾン(ネット販売)にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ(050-5525-2102)

東京藝術大学創立一二〇周年記念事業募金にご寄附いただきました皆様

一月三十一日現在(敬称略・五十音順)

- 〔個人〕
今井昭吾 岡部多喜子 亀田直里 河野石根 小松敏明 小山清男 今野淳子 迫田幸雄
白石幸生 白井實 鈴木始郎 鈴木敏雄 鈴木良太郎 竹内雄也 土田英三郎 中島尚正
中野孝昭 新山榮 西川こずえ 稗田一穂 藤木忠善 峰村貞子 本木下道子 米今明彦
- 〔企業・団体等〕
赤井一恵堂 (財)足立美術館 今井美術館 NECネクサソリューションズ(株)
おぐら美術 ギャラリーあぎぬ (株)久保工 (株)靖雅堂夏目美術店 (株)西武百貨店
(株)そごう (株)大丸 東京藝術大学音楽学部互親会 東京藝術大学音楽学部同声会
(財)日本美術院 (株)博報堂 (株)はせがわ (株)ホテルオークラエンタープライズ
(有)丸栄堂 モルガン・スタンレー証券(株)

二月以降にご寄附いただいた方のご芳名は次号に掲載させていただきます。

◆第二回 藝大アートプラザ大賞入賞作品展

十二月四日から二十四日まで、第二回「藝大アートプラザ大賞入賞作品展」(作品テーマは「生命」)が開催された。これは学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため昨年度から実施している学内アートコンペで、厳正な審査を経た入選作品を展示、販売するもの。二回目を迎えた今回は、総勢三四名(六九点)の応募の中から選ばれた二九名(六四点)の作品が会場の藝大アートプラザを飾った。



第二回藝大アートプラザ大賞は、大学院美術研究科で彫金を専攻する満田晴穂さんの作品「自在陸宿借」が受賞した。

◆ポケットフィルム・フェスティバル

十二月七日から九日まで、大学院映像研究科において、携帯電話による新たな映像表現を目指す「ポケットフィルム・フェスティバル」が開催された。本学とソフトバンクグループなどが実行委員会を組織。共催にフランスで携帯映画祭を開催しているパリ市立映像フォーラム。

これは日本初となる携帯電話の動画機能を使って撮影した作品を上映する映画祭。国内外から四〇四作品の応募があり、一次審査を通過した四八作品が映画祭で上映され、藤幡正樹大学院映像研究科長、佐藤雅彦教授ら五名の審査員による厳正な審査の結果、会社員、小林大祐氏と大山徹氏の作品「720/24」が大賞を受賞した。

◆映画専攻制作作品

「夕映え少女」を公開
一月二十六日から、渋谷・ユーロスペースにおいて、大学院映像研究科映画専攻第二期生が制作した「夕映え少女」が公開された。

この作品は、川端康成の短編集「夕映え少女」を原作に、映画専攻二期生約三〇名が参加し、期待の若手女優たち

を主演に迎え、女性心理の機微を描いた四作品から成っている。このオムニバス映画の制作にあたっては、企画・資金調達・スタッフ編成・キャストイング・撮影・ポストプロ・宣伝など、映画製作上のほぼすべての実務を学生たちが行った。

◆藝大生による邦楽公開講座

二月十一日、本学上野キャンパスにおいて、音楽学部邦楽科主催、現役藝大生による公開講座「藝大生による邦楽公開講座」が気軽に楽しく伝統文化が昨年引き続き、文化庁後援のもと開催された。

この公開講座は、小学四年生以上を対象に、より多くの方に邦楽と気軽に接していただく機会をつくろうと開催されるもの。

◆藝大フレンズ加入者状況

- 加入者(平成二十年一月三十一日現在)
賛助フレンズ 個人一三二名 法人五団体
特別賛助フレンズ 個人一八名 法人一団体